

美浜発電所後継機の自主的な現地調査計画の変更

2026年9月9日
関西電力株式会社

当社は、2011年3月12日以降見合わせていた美浜発電所の後継機設置検討の自主的な現地調査を2025年11月5日に再開し、調査を進めてきました。

([2025年7月22日](#)、[9月17日](#)、[11月5日](#)お知らせ済み)

当社はこのたび、これまでの調査結果を踏まえ、現地調査計画の変更を決定しましたのでお知らせいたします。

2025年9月17日にお知らせした自主的な現地調査計画では、まず概略調査として発電所の敷地内外を幅広く調査し、地質の概況を踏まえて、より優位なエリアを選定し、そのエリアにおいて詳細調査を実施する計画としていました。

これまでの概略調査の結果、北側エリア、南側エリアのいずれにおいても、原子炉等の設置に適した強度を持った岩盤が存在することを確認しています。また、現時点において、将来活動する可能性のある断層等は確認されていません。

現時点では両エリアで同程度の調査結果が得られていることから、原子炉等の設置に適した地質・地盤として、どちらのエリアがより望ましいかを検討するため、追加のボーリング調査等を実施し、さらなるデータの拡充を図ります。

これに伴い、概略調査の完了時期を2027年3月から2028年3月に変更します。詳細調査については、当初の計画から変わらず、2030年までに完了する見通しです。

なお、後継機設置の判断にあたっては、本調査の結果に加え、革新軽水炉の開発状況や規制の方針、さらに投資判断を行う上での事業環境整備の状況を総合的に考慮する必要があり、本調査の結果のみをもって後継機設置を判断するものではありません。

当社は、引き続き、安全最優先で原子力発電所の安全・安定運転に全力で取り組むとともに、地元をはじめとする皆さまのご理解を賜りながら、原子力発電事業を推進してまいります。

以 上

別紙：調査計画の変更概要

調査計画書については、[こちら](#)をご覧ください。

概要

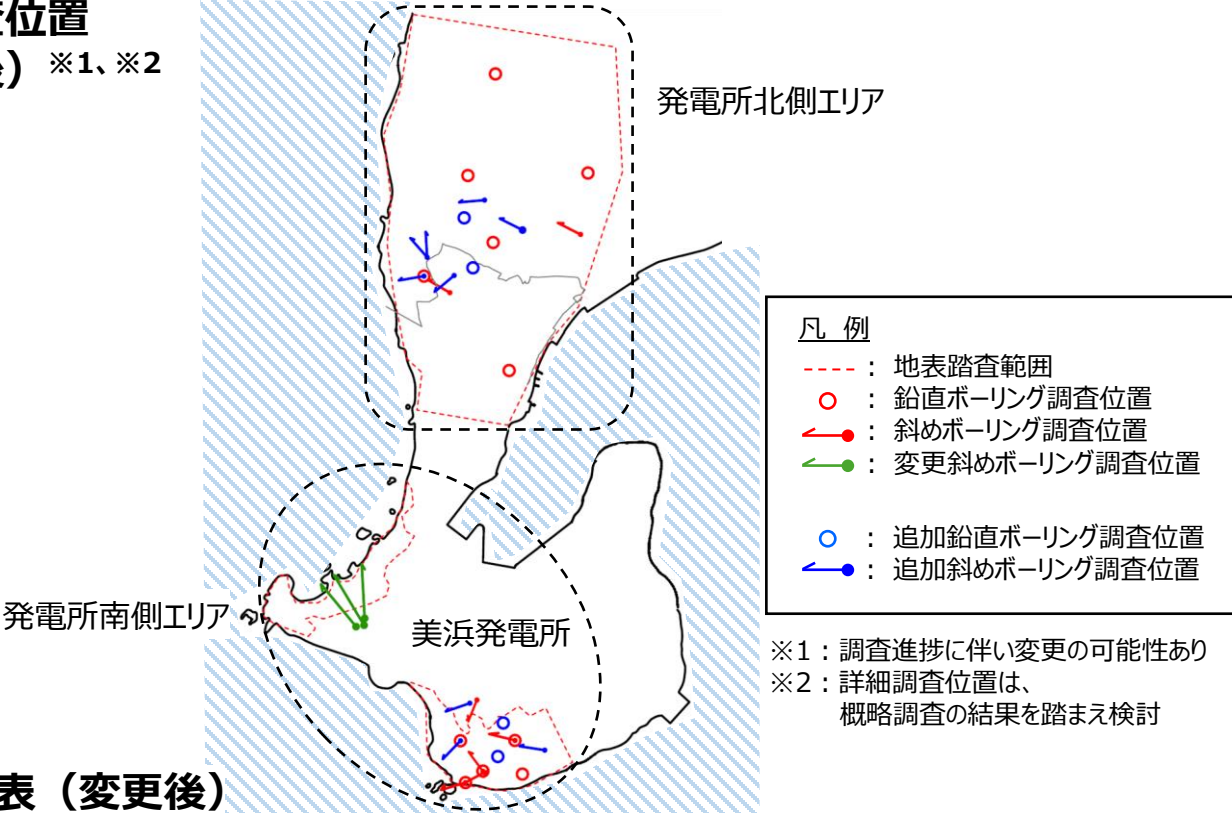
- 北側エリア、南側エリアともに、原子炉等の設置に適した強度を持った岩盤が存在することを確認。また、現時点において将来活動する可能性のある断層等は確認されていない。
- 原子炉等の設置に適した地質・地盤として、どちらのエリアがより望ましいかを検討するため、追加のボーリング調査等を実施し、さらなるデータの拡充を図る。
- 概略調査の完了時期を2027年3月から2028年3月に変更。
- 詳細調査については、当初の計画から変わらず、2030年までに完了する見通し。

追加ボーリング本数（調査進捗に伴い変更の可能性あり）
発電所北側エリア：追加ボーリング8本 発電所南側エリア：追加ボーリング5本

実施期間（予定）

変更前	概略調査：（自）2025年11月（至）2027年3月 詳細調査：（自）2027年4月（至）2029年～2030年
変更後	概略調査：（自）2025年11月 （至）2028年3月 詳細調査： （自）2028年4月 （至）2030年

概略調査位置（変更後） ※1、※2



調査工程表（変更後）

調査項目	2025年		2026年								2027年												2028年						2030年					
	11	12	1	...	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	-							
概略調査※3 ・ボーリング調査 ・弾性波探査 ・地表踏査	現地調査		現地調査（追加分）																															
			分析・評価								分析・評価（追加分）																							
詳細調査 ・試掘坑調査 ・弾性波探査 ・深浅測量 ・ボーリング調査※4 ・地震に関する調査																							詳細調査 計画検討						現地調査および 分析・評価					

※3：調査進捗に応じて、記載の項目以外の調査についても実施する可能性あり。※4：概略調査の結果を踏まえて必要に応じて実施

調査目的

- 新規制基準の要求事項（将来活動する可能性のある断層等の認定等）を確認する。
- まずは概略調査として、発電所北側エリアおよび発電所南側エリアにおいて、地表面の地質の分布や将来活動する可能性のある断層等の有無を調べるために、ボーリング調査、弾性波探査、地表踏査を行い、地質の概況を踏まえ、より優位なエリアを選定する。
- 次に詳細調査として、選定したエリアにおいて、地形や地質の状況を把握し、原子炉等の設置に適した地質・地盤であるかを確認するために、試掘坑調査、弾性波探査、深浅測量、ボーリング調査、地震に関する調査を行う。

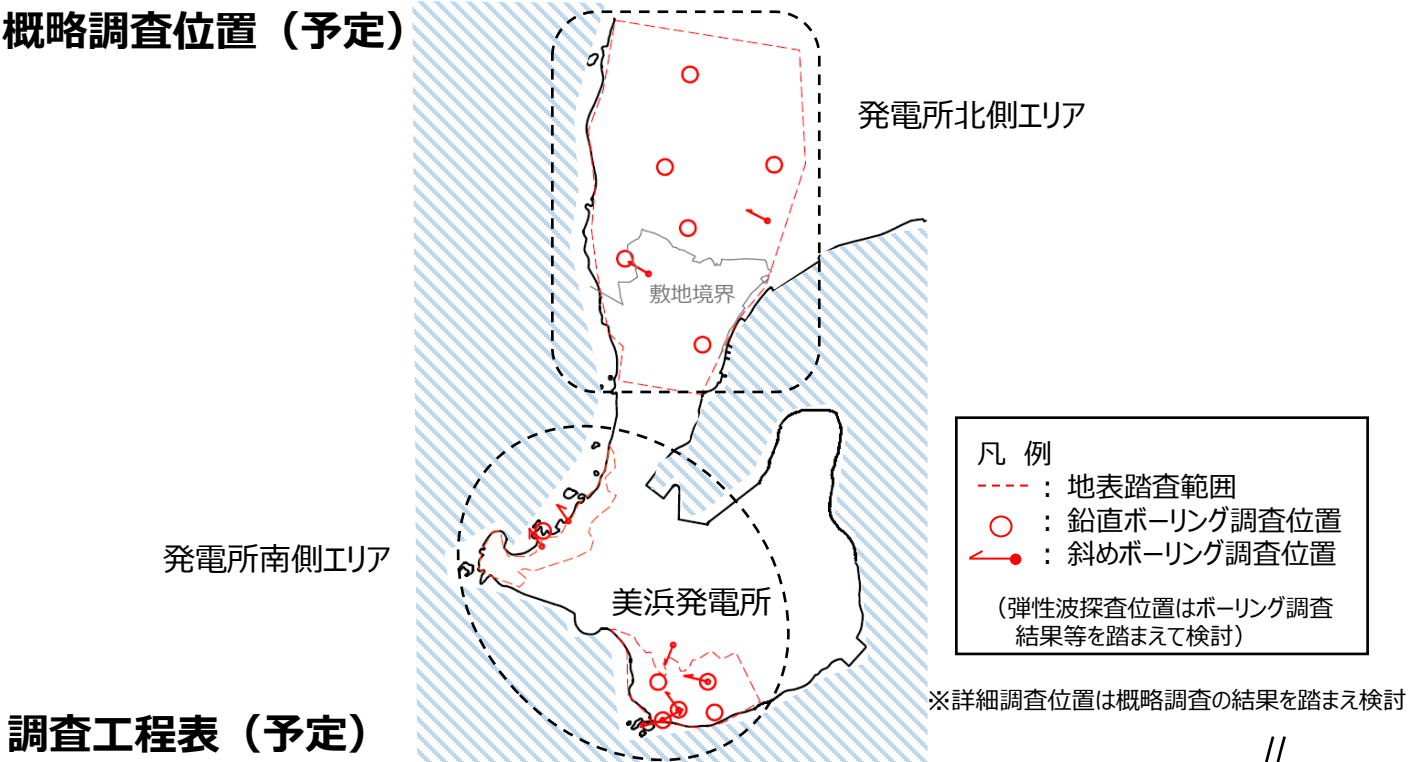
調査項目

- 概略調査：ボーリング調査、弾性波探査、地表踏査
 - 詳細調査：試掘坑調査、弾性波探査、深浅測量、ボーリング調査※、地震に関する調査
- ※概略調査の結果を踏まえて必要に応じて実施

実施期間（予定）

- 概略調査：（自）2025年11月 （至）2027年3月
- 詳細調査：（自）2027年 4月 （至）2029年～2030年

概略調査位置（予定）



調査工程表（予定）

調査項目	2025年		2026年												2027年						2029～2030年
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	-
概略調査	現地調査																				
・ボーリング調査			分析・評価																		
・弾性波探査																					
・地表踏査																					
詳細調査																					
・試掘坑調査																					
・弾性波探査																					
・深浅測量																					
・ボーリング調査※																					
・地震に関する調査																					
詳細調査計画検討															現地調査および分析・評価						

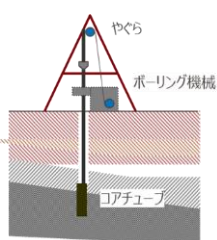
※概略調査の結果を踏まえて必要に応じて実施

概略調査

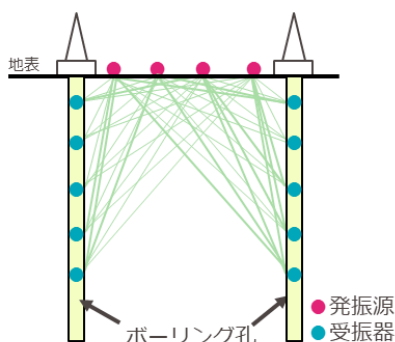
原子炉等の設置に適した地質、地盤であるか等を確認するため、陸域及び海域のボーリング調査・弾性波探査・地表踏査により地質の状況を概略把握する。

- ボーリング調査
ボーリングマシンにより、地盤を構成する岩石などを棒状に採取し、試料を観察・試験して地中の地質状況や岩石の性状を確認する。
- 弾性波探査
地盤中の微小な振動の伝わる速さを計測し、地盤の硬さの分布を確認する。ボーリング孔を利用し複数の探査測線を組み合わせることで、広く地質・地盤の状況を把握する。
- 地表踏査
地質などを観察・記録し、地表面の地質の分布状況を詳しく調べる。

ボーリング調査（イメージ）



弾性波探査（イメージ）



地表踏査（イメージ）



詳細調査

原子炉等の設置に適した地質、地盤であるか等を確認するため、試掘坑調査、弾性波探査、深浅測量及び地震に関する調査により地形・地質の状況を詳細把握する。

なお、概略調査の結果次第では、追加でボーリング調査を実施する可能性がある。

- 試掘坑調査
2 m程度の坑道を掘削し、地盤を構成する岩石などを面的に把握し、試料を観察・試験して地中の地質状況や岩石の性状を確認する。
- 弾性波探査
地盤中の微小な振動の伝わる速さを計測し、地盤の硬さの分布を確認する。試掘坑等を利用し複数の探査測線を組み合わせることで広く地質・地盤の状況を確認する。
- 深浅測量
海域については、深部は調査船に取り付けた測深機により、浅部は現地測量により、海底の地形を測量する。
- 地震に関する調査
地震計を設置して地震等を観測し、記録の分析を行う。

試掘坑調査（イメージ）



深浅測量（イメージ）



地震に関する調査（イメージ）

